

厄介者の雪。でも降らなければ物足りない気もする。そう、私たちはこのまちで雪と共に暮らしてきました。でも一人ではどうしようもないときは必ずあります。そんなとき助けてくれる存在がこのまちに広がりつつあります。見方を変えて、雪を地域の力に変えてきたスノーレンジャーとスノーヘルパーの活動を取り上げます。

より広い地域で、 より近く支え合う

赤名雪かきボランティア スノーヘルパー

平成30年1月結成。あらかじめ日にちと時間を定め、集まったボランティアが赤名連担地で、主に高齢者世帯を対象に玄関先を雪かき。雪かきと地域の見守りの両輪で活動している。これまでは男性のみだったが、現在レディースヘルパー結成に向けて準備中。

令和2年のスノーヘルパー

- 1月～2月の日曜日10時～11時30分
 - 1月19日、26日、2月2日、9日、16日(男性)
 - 1月18日、2月1日(女性:主に訪問見守り活動)
 - 集合場所 赤名バス車庫前(10時集合)
- ※雪が少ないときや悪天候の場合は、告知放送でお知らせします。



赤名自治振興協議会会長の景山治さん

10年ぐらい前かのお。これから子どもたちが減ってお年寄りが増えたら、雪かきせにやいけん世帯がもっと増えると思ったのは。

そのときは、たまたま近所のお年寄りの家2・3軒の雪かきをしとって「近所のお年寄りが困ると、自分一人の力じゃどうにもならん」と痛感させられた。そして1年前に赤名自治振興協議会の役員になったけん、「地域での雪かき」を提案したら、みんなが賛同してくれた。

感謝されたくてやっとなるんじやお

て、助け合いの精神。勝手にやっとなるんだけえ、黙ってやればいい。ちょっとしたお節介みたいなもんだ。ワイワイ楽しく、たわいもない話をしながら適度にやっとなるよ。ときには自治振興のこととか真面目な話もするけど。

普段の生活の中でお年寄り世帯を訪問する機会はなかなかない。今は男だけで見守りをしとるが、男だけじゃなかなか見守りって感じじゃないのかもしれない。それで今年にはレディースヘルパーを募集して、主にお年寄り世帯の訪問見守り活動ができんかと考えとる。これまでは男たちが勝手にやっとなるんだけだったかもしれないが、これからは住民の声を聞きながらの雪かきができたらいい。でもみんなにとって負担にならない程度にやらにやいけん。緩やかに長く活動が続いていけばそれでいいんじゃないか。やっぱり自分の育った地域は明るく元気であってほしい。雪かきばっかりじゃなしに、地域全体で声かけができるようになっていけばいいよのお。



小型除雪機も大活躍



達成感に満ちた笑顔で



雪がきたらまかしとけ

住民の不安を 雪と一緒に吹き飛ばす

有償ボランティア スノーレンジャー

平成21年6月結成。谷地区の全(約80)世帯を対象とし、除雪依頼のあった家の周辺から主要道路までの除雪を担う。屋根の雪下ろしは行っていない。料金は1時間あたり1,500円(以後30分ごとに500円)。ポリシーは「自分のところだけでなく、よそのところも」。

スノーレンジャーができたきっかけは、実のところ自分が困っていたんです。隣の家に自分の母親が住んでいて、雪かきが負担でした。それで「他にも困ってる人がおるかもしれん」と思い、谷地区の皆さんに相談してみたんです。一人じゃ腰が重いけど、みんなでやればできるんじゃないかと。そしたら17人が快く引き受けてくれて、組織が立ち上がりました。これが10年前のことですね。今も立ち上げ当時のメンバーで活動しとって、雪かきはもちろん、秋口には地域の見守りを兼ねて、家の庭や道を点検しています。



事務局を務める澤田定成さん

活動を続ける中で、隊員の高齢化とか機械の寿命とか、いろいろ問題は出てくるけど、「ありがとう。雪が降っても安心できる。ほんに感謝しとる」と言われたときは素直にやってきて良かったなと思う。喜んでくれる人がいる、必要としてくれる人がいるから今まで続いているのかもしれない。でも義務でやっとなるわけでもない。自分たちが楽しくやればそれでいい。単純にきれいになれば気持ちいいし。

生活の面から言うと、雪は降らんでほしい。でも活動するには降ってほしいところも少し。今年も除雪機や除雪場所・経路の点検、安全講習会、隊員間での情報共有など、長い準備期間は終わった。あとは雪を待つだけです。

スノーレンジャーとして雪を見て10年。今では「大雪は災害」という認識を持つようになりました。それまでは心のどこかで「降って当たり前」と思ってたし、特に気にしてなかった。災害の観点で考えれば、地域でやれることはまだまだあるんじゃないか。そんなことを考えながら今でも試行錯誤しています。ただの雪かきじゃなくて、地域づくりにつながっていけばいいよね。



雪を退かしにどこまでも



ここは要注意だね



おそろいの防寒着でさらに深まる絆

第2章
逃れられないのなら、
楽しめばいい。
まちに広がる共助の動き